

第4学年国語科学習指導案

1 単元名

ノンフィクションのホンシェルジュになろう

2 教材名 「ランドセルは海をこえて」

3 単元目標

- 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くことができる。 〔知識及び技能〕(3)オ
- 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。 〔思考力・判断力・表現力等〕C(1)カ
- 進んで幅広く読書に親しみ、学習の見通しをもって、読んだ本を紹介しようとする。 〔学びに向かう力、人間性等〕

4 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。 【(3)オ】	○文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。 【C(1)カ】	○進んで幅広く読書に親しみ、学習の見通しをもって、読んだ本を紹介しようとしている。

5 単元について

(1) 本単元で行う言語活動と扱う教材について

本単元では、「C読むこと」の言語活動例「ア 記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動」を具体化し、ノンフィクションを読み、ホンシェルジュとして紹介カードを作るという言語活動を設定する。

ホンシェルジュとは、本のコンシェルジュを意味する造語であり、本単元では、相手の求めに応じておすすめのノンフィクションを紹介することができる人を意味している。

「ランドセルは海をこえて」は、ランドセルがアフガニスタンの子どもたちにどれほど歓迎されているかを、写真と分かりやすい文章とで説明しているルポルタージュである。身の回りの事柄の知識を思考の中心として生活してきた児童たちも、社会で働く人、世界で起こっている出来事、目には見えない宇宙など、多様な方向に興味・関心を向けられる段階にさしかかっている。本作品も、そういった児童の興味・関心に応えられるものとなっており、興味をもって読み進めることが期待される。

また、本単元の第二次では、児童一人一人が自分の興味・関心に応じてノンフィクションを選び、学習に取り組む。その際、共通教材として取り扱う「ランドセルは海をこえて」のようなルポルタージュに加え、ドキュメンタリーや伝記など、多くのノンフィクションからおすすめの本を選べるようにすることで、児童が本当におすすめしたい本を選び、意欲的に学習に取り組めるようにする。また、紹介カード作りは、紹介したい相手を考えながら、目的意識をもって学習に取り組め

るようにしたい。

(2) 本単元で身に付けさせたい力

本単元は、小学校学習指導要領第3学年及び4学年の知識及び技能〔(3) 我が国の言語文化に関する事項〕における指導事項(3)オ「幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。」及び、思考力・判断力・表現力等〔C読むこと〕における指導事項(1)カ「文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。」を受けて設定している。

ノンフィクションを読むよさについて、本単元では、以下のように設定する。

- ①自分が知らなかった世界を知ることができたり、知見が広がったりするよさ。
- ②読んで知ったことによって自分の興味や疑問に答えることができるよさ。
- ③読んで知ったことを自分自身の人生や生き方に生かすことができるよさ。

こうしたノンフィクションを読むよさに気付くことができるよう、本単元では、児童自身が選んだノンフィクションについて、「どんな人に選んだ作品を読んでもらいたいか。」「選んだ本は、人生や生き方にどう生きるのか。」などを考えながら紹介カードを書き、紹介し合う活動を行う。はがきサイズの紹介カードのよさは、本の帯やポップのように、本とセットで飾られるものではなく、作成した児童が所有し、必要としている相手にいつでも提示できる場所にある。ノンフィクションのよさを知り、おすすめする人として、紹介カードを作り、所有し、紹介できるようにしたいという意欲が生まれると考える。本単元の学習を振り返った時に、児童がノンフィクションを読むことのよさを感じられるように取り組んでいきたい。また、カードを書く際には、友達から下書きに対してのアドバイスをもらい、感じ方の違いに気付けるようにしたい。

6 児童の実態（一部省略）

（実態を受けて）本単元では、友達からのアドバイスを忘れることなく見返すことができるよう、紹介カードの下書き作成とそれに対する意見交換等をプレゼンテーションソフトを活用して行う。プレゼンテーションソフトを活用することで、友達からのアドバイスが消えることなく残ることに加え、一人の児童の下書きに対して、複数の児童が同時に閲覧し、作業することができるので、会話を交わしながらよりよいアドバイスができるというよさもあると考える。

また、毎時間の学習の成果と課題を確認し、次時への見通しを明確にもてるよう、グループでミーティング形式のふりかえりを行う。ふりかえりを個人で完結させるのではなく、グループで共有することで、相手に伝えるために自分の意見をしっかりとどうという意識をもたせることができる。さらに、友達から自分のふりかえりや活動についてコメントをもらうことで、質の高いふりかえりができるように指導していきたい。

7 単元の指導計画（全7時間扱い）

次	時	主な学習活動	○指導上の留意点◇評価規準
第一次	1	<p>○ホンシェルジュとして、ノンフィクション紹介カードを作るといふ学習の見通しをもつ。</p> <p>○ノンフィクション紹介カードを書くための学習計画を立てる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【紹介カードの構成】</p> <p>1. あらすじ →「だれが、どのようなことに取り組んだ本か」「何の活動や事実について書かれた本か」などを簡単に紹介したもの。</p> <p>2. 本からえられるもの →何について知ることができるか。 どんなことを学ぶことができるか。</p> <p>3. おすすめの相手 →「どんな人に」もしくは、「どんな時に」読んでほしい1冊なのかを書く。</p> </div>	<p>○教師が作ったノンフィクション紹介カードのモデルを提示し、どのような観点で書かれているかを確認させる。</p> <p>○単元のゴールで、一人一人が書いた紹介カードを読み合ったり、紹介カードを図書室に飾って全校児童に読んでもらったりすることを伝え、学習の見通しをもたせる。</p> <p>○1人1冊お気に入りのノンフィクションを選ぶよう、ノンフィクションのジャンルや選書の仕方についての指導を行う。</p> <p>◇ノンフィクションの紹介カードを書くという活動の見通しをもち、意欲的に取り組もうとしている。 【態】</p>
	2	<p>○「ランドセルは海をこえて」を読み、あらすじや紹介したい相手を考える。</p> <p>○ノンフィクションの紹介カードを作る際のポイントを考える。</p>	<p>○作品の魅力について考える際には、ランドセルを手にして喜ぶ子供たちの表情やアフガニスタンの子供たちの生活の様子がよくわかる写真から読み取れることを考えさせる。</p> <p>○教師モデルや本時の学習を振り返り、ノンフィクション紹介カードを作る際のポイントを確認できるようにする。</p> <p>◇同じ作品に対しても、一人一人の感じ方などには違いがあることに気付いている。 【思C】</p>

第二次	3・4	<p>○自分が選んだ作品の内容について、あらすじや紹介したい相手などを下書きにまとめる。</p>	<p>○前時の学習でまとめた紹介カードづくりのポイントを提示し、下書きをする際に意識できるようにする。</p> <p>○下書きを書く際に悩んだり、困ったりしたことは、後から友達にアドバイスをもらえるよう、「コメント」に残しておくよう指導する。</p> <p>◇自分が選んだノンフィクションから得られる知識や情報がどんな人、どんな時に役に立つかを考えて紹介カードの下書きを作っている。 【知・技】</p>
	5	<p>○紹介カードの下書きを友達と読み合い、ノンフィクション紹介カードに書く内容について検討する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【紹介文のポイント】</p> <p>○あらすじは、本の内容の大体を書く。「だれが、何に、どのように」取り組んだか意識して書く。</p> <p>○「おすすめの相手」は、本からホンシェルジュが学んだことと関連付けて考えられるとよい。</p> </div>	<p>○紹介カードづくりの際のポイントを確認し、友達とカードの下書きを読み合う際に気を付けることを確かめさせる。</p> <p>○自分が読んだ作品を中心に、友達の紹介カードを読み、プレゼンテーションソフトにコメントするように声をかける。</p> <p>○友達からのアドバイスを読み、直す必要があると感じたところは修正してもよいことを伝える。</p> <p>◇友達の下書きを読んで感じたことや考えたことを共有したり、友達からのコメントを読んだりして、一人一人の考え方や感じ方に違いがあることに気付いている。 【思C】</p>
	6	<p>○前時によりよくした下書きをもとに、自分が選んだノンフィクションの紹介カードづくりを行う。</p>	<p>○前時に書いた自分のふりかえりを読み、本時にすべきことを確認するように促す。</p> <p>○下書きを誤字脱字に気を付けて書くように伝える。</p> <p>◇自分が選んだノンフィクションについて、進んで紹介カードを書き、紹介しようとしている。 【態】</p>

	<p>7 (本時)</p>	<p>○完成したノンフィクション紹介カードを友達と読み合う。</p> <p>○単元の学習を振り返り、ノンフィクションのよさについて考える。</p>	<p>○友達の紹介カードを読み、読んでみたいと思った理由や自分に向いていると考える理由をコメントするように伝える。</p> <p>○後日、友達に紹介されたノンフィクションを読む時間を設けることを伝え、読んでみたいノンフィクションを探す意欲をもてるようにする。</p> <p>○同じ本についての紹介カードを作った友達がいる場合には、自分の考えとの相違点にも着目し、コメントするように声をかける。</p> <p>○振り返り際には、並行読書で読んだ本から学んだことや、紹介カードづくりの際に気を付けたこと、友達の紹介カードを読んで気付いたことを思い返しながら書くよう伝える。</p> <p>◇幅広く読書に親しみ、ノンフィクションは、自分の生き方や生活に生かすことができたり、知らなかったことを知ったりできるものであることに気付いている。 【知・技】</p>
--	-------------------	---	---

8 本時の学習（7／7時間）

(1) ねらい

○幅広く読書に親しみ、ノンフィクションは、自分の生き方や生活に生かすことができたり、知らなかったことを知ったりできるものであることに気付いている。 【思考・判断・表現】

(2) 展開

過程 (時配)	学習活動 ・ 予想される児童の反応	○指導上の留意点 ◇評価【観点】
3分	1 本時のめあてを確認する。 ・どんなノンフィクションが読みたいかアンケートをとったね。 ・誰に紹介してもらえるか楽しみだな。	○自分が紹介カードを作ったノンフィクションを、求めている相手に紹介することを確認し、学習の見通しをもたせる。 ○前時までと同様に、本時の学習過程での学びや気づき、これから取り組みたいことなどは、本時のふりかえりに適宜記入してよいことを確認する。
完成したカードを友達と読み合い、これまでの学習をふりかえろう。		
5分	2 紹介活動を行うグループと、紹介し合う際に気を付けることを確認する。	○児童が読書の幅を広げたいと思えるよう、それぞれの興味関心に合ったノンフィクションを紹介してもらえようようなグループ分けを事前しておく。 ○グループは、「どんな人におすすめのノンフィクションを読みたいか」について尋ねた事前アンケートをもとに組んだことを伝え、紹介する活動に必要感をもたせる。 ○自分のニーズに合ったノンフィクションを紹介する友達が2～3人程度いるようにグループを組んでおく。 ○後から見返すことができるよう、紹介を受けた児童は、感想をプレゼンテーションソフトの紹介者のスライドにコメントすることを確認する。 ○1人につき、紹介する時間と感想を入力する時間（2分程度）を各班で交互にとることを伝える。
17分	3 グループに分かれて紹介活動を行い、感想をギガタブに入力する。 ・自分にとっても合っているノンフィクシ	○グループの中に、同じノンフィクションを紹介する児童が複数いる場合には、「本からえたこと」「どんな人におすすめか」の共通

5分	<p>ョンだと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じノンフィクションを選んでいてもおすすめの相手が違うんだね。 ・「本からえたこと」に、読んでいる最中の感想があつて、わかりやすかつた。 <p>4 全体の中でノンフィクションの紹介活動を行う。</p>	<p>点や相違点にも気を付けて話を聞くように声をかけ、感じ方の違いに気付けるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分が紹介カードを書くときに気を付けたことが、人の紹介カードを読むときに着目するポイントになることを確認する。 ○紹介者への感想入力が早く終わった児童には、本の紹介者に本の魅力や学んだことについての詳しく質問してもよいことを伝える。 ○自分のニーズに合ったノンフィクションをもっと知りたいと感じた児童を取り上げ、それに合ったノンフィクションの紹介カードがある児童に紹介をさせる。
15分	<p>5 単元の学習を振り返り、ノンフィクションのよさとは何かを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が知らなかったことを知ることができるね。 ・興味や疑問に応じて本を選ぶことができるね。 ・自分が紹介した本が友達の生活や人生に役立つといいな。 ・自分の趣味や頑張っていることのモチベーションにつながることもあるよ。 ・何かを頑張ろうと思えるノンフィクションもあったね。 ・人によって向いている本は違うよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○単元の学習を思い起こし、どんな時にノンフィクションを読むとよかつたかを考えるよう促す。 ○必要としている相手にノンフィクションをおすすめしたことで、今後どんなよいことが起こるかを考えさせる。 ○手が止まっている児童には、紹介カード作りで気付いたノンフィクションの特徴は何かを考えるように声をかける。 ○個人で考える時間を取った後、グループで意見の交流を行い、各グループ代表1人が出た意見を全体で共有する。 ◇幅広く読書に親しみ、ノンフィクションは、自分の生き方や生活に生かすことができたり、知らなかったことを知ったりできるものであることに気付いている。(ノート) 【思考・判断・表現】 ○学習中に本時のふりかえりを書いていない児童には、記入をするように促す。